

平成29年11月14日に総務生活委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

● 「大規模災害被災者受入れに関する条例」

に係る附帯決議への対応について ●

～内容～

総社市民に対する災害時の具体的な支援策を定めるようにという議会からの附帯決議を受け、災害救助法の適用にならない規模の災害が市内で発生した場合に災害救助法と同レベルの支援、救助を行うため、施策を定めようとするもの

～質疑～

問：災害救助法との二重支給にはならないか。

答：災害救助法の適用にならない規模の災害について総社市が独自に支援していくというものであり、二重支給にはならない。

問：適用基準に自然災害とあるが、人災の場合は適用にならないのか。

答：大規模な火災や事故など人災によって生じる被害も対象となるが、人災については優先的には加害者側が責任を持って対応していただくのが本来の姿である。

問：大規模災害が起きたときに総社市民を優先する具体的な手立てはどうか。

答：南海トラフがおきた場合は、県南の市と県北の市とで協定を結び支援について定めている。また、それぞれの避難所でのニーズに対応していくために、各避難所ごとにある程度自由に使えるお金を配分する。いざというときにどうするのかという細かい対応については、地域防災計画を見直し検討していきたい。

● 公共施設等総合管理計画について ●

～内容～

長期的な視点を持って公共施設等の適正配置と有効活用及び財政負担の軽減平準化について検討し、持続可能なまちづくりを実現していくため、公共施設等総合管理計画を策定したもの

～質疑～

問：公共施設等総合管理計画により、厳しい財政状況を市民に周知する必要があると思うがどうか。

答：ホームページに掲載している。広報紙などいろんな媒体を使い広く周知する必要があると考えている。

問：公共施設等マネジメントの基本方針で施設の再編による施設保有量の縮減とあるが、どのように行うのか。

答：今回の総合管理計画は市全体の方針を定めたものである。個別施設計画については、今後、各担当部署で施設の利用状況等の調査を行い、慎重に対応していく。

● 長期財政見通しについて ●

～内容～

第2次総社市総合計画で定められた施策や事業を実施するための財源的な裏づけとし計画的な財政運営を行うために、中期財政見通しを策定したもの

～質疑～

問：歳入の見通しが低すぎるのではないかと。また、普通建設事業も減りすぎではないかと。

答：交付税については、現在想定しうる算定に基づいて試算している。普通建設事業についても、現在計画されている事業の金額を積算しているが、今後新しい事業が上がってくると金額が変わってくるので、計画を毎年ローリングしていきながら正しい金額を積算していきたい。

問：中期の区切りを5年としたのはなぜか。

答：10年スパンにすると数字の予測が付きにくいいため、5年で作成している。なお、この表に記載はないが公債費等の償還など起債残高等については、平成35年以降についても見通しをたてながら運用している。

● 第2次総合計画の評価検証について ●

～内容～

市民満足度調査の結果をもとに総合計画審議会で出た意見を参考に、第2次総社市総合計画について評価検証しようとするもの

～質疑～

問：市民満足度調査のアンケートで、インターネットで回答した方はどれくらいいるのか。

答：今年度は44人で6%の方がインターネットで回答している。昨年度は99人で11%である。

問：回答率が昨年度より下がっているが、理由は何か。

答：若年層の行政に関する関心の薄さが一つの原因である。情報発信のやり方と興味を持ってもらう取組みを考えていきたい。

問：アンケートの回答者に対し、返事を返してはどうか。

答：実際に自分の意見が生かされたと市民が実感できる仕組みを検討していきたい。

● ふるさと納税にかかる使途区分の拡充について ●

～内容～

ふるさと納税に係る使途区分について、現行の4種から30種へ細分化することで、より具体的に総社市の政策を発信していこうとするもの

～質疑～

問：細分化ということだが、30種は多すぎるのではないか。

答：独自政策を並べると多くなってしまったが、項目については再度検する。

問：寄付金がどんなことに使われるのか説明があるのか。

答：政策の具体的な紹介についてお伝えしていく。また、いただいた寄付金が何に使われたかの報告もしていきたい。

問：ふるさと納税の返礼品として、見守り活動を取り入れてはどうか。

答：現在お礼の品として検討している最中である。積極的に導入していきたい。

当局からの報告事項

● 2018 そうじゃ吉備路マラソンについて ●

～内容～

第10回目の記念大会となる2018 そうじゃ吉備路マラソンの概要について報告を受けました。

～質疑～

問：フルマラソンとハーフマラソンは今回も同時スタートなのか。

答：コースの規制時間、審判員の配置等の関係で、今は同時スタートがベストであると考えている。

問：県立大学の入試と重なり開始時間が1時間遅くなるとのことだが、今後重なった場合は日程変更を考えるのか。

答：現在2月25日が国公立大学の2次試験の日と定められている。吉備路マラソンが2月の第4日曜日だということが知れ渡っており、日程変更をすると沿道に影響を与えることとなるため、今後も時間を遅らせるという方法を考えていきたい。